

## 第3回徳島新時代における防災情報発信検討会 質疑録

- 1 日時 令和5年11月22日（水） 午前10時00分から正午まで
- 2 会場 万代庁舎 10階 特別大会議室
- 3 出席者 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 金井委員  
四国大学 経営情報学部 山本委員  
西日本電信電話株式会社 徳島支店 副支店長 長尾委員  
日本放送協会徳島放送局 コンテンツセンター センター長 武市委員  
四国放送株式会社 取締役報道制作局長 武知委員  
株式会社エフエム徳島 営業部長 浜野委員  
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所 流域治水課長 道谷委員  
気象庁徳島地方气象台 地域防災官 宮本委員  
徳島市危機管理局 次長 吉田委員  
美波町消防防災課 課長 前野委員  
徳島県県土整備部 道路整備課 課長補佐 秋山委員代理  
徳島県県土整備部 河川整備課 課長 披田委員  
徳島県県土整備部 砂防・気候防災課 課長補佐 馬越委員代理  
徳島県危機管理環境部 平井部長  
徳島県危機管理環境部 森副部長  
徳島県危機管理環境部 佐藤次長  
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 鈴江課長  
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 加藤副課長  
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 横山課長補佐  
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 中野

### 4. 質疑応答

(1) 徳島県 SNS 等防災情報発信マニュアル（案）について

(A 委員)

- ・マニュアルの改善タイミングと改善方法はどのようなものか。
- ・情報発信のトラブルに関する手順はあるのか。

(事務局)

- ・今後運用で PDCA を回しながら検討していく。
- ・県民の意見も取り入れて随時改訂する。
- ・誤送信等については2重のチェック体制で行う。
- ・情報発信のトラブルについては、基本的に巻末資料のガイドラインに沿って対応していくが、マニュアルに対応を追記する。

(B 委員)

- ・表2の情報発信のトリガーは气象台の台風や気象の説明会が行われた後か。

(事務局)

- ・そのとおり。

(C 委員)

- ・情報発信の責任者と確認者、担当者が同じ課で完結しているのは、

タイムロスがなくて良い。

- ・ 県民へのお知らせで「緊急性」とは何か。
- ・ 表2では発信タイミングの記載はあるが、解除時はどうするのか。
- ・ 災害時は手がとられるので、定型文は必要である。

(事務局)

- ・ 道路の通行規制解除は HP に掲載しているが、どう県民へ知らせていくかは道路整備課と検討する。
- ・ 河川水位警戒情報と高潮特別警戒水位情報は、現在水位が下回った時も発信しているので、マニュアルを修正する。
- ・ ダム放流情報は発表時のみ。
- ・ 陸閉鎖情報は担当で検討する。
- ・ 被災情報は発表時のみ。
- ・ 「緊急性」とは、県民の命と財産にせまる時である。
- ・ 定型文は追加でのせる。

(B 委員)

- ・ 陸閉鎖情報だが、道路も通行出来ない旨をメッセージに入れてほしい。

(事務局)

- ・ 対応したい。

(D 委員)

- ・ マニュアルは形式にしばられないように作られているのが良い。
- ・ 更新の責任者を明示した方が良い。

(事務局)

- ・ どこが責任を持って更新するのか明示したい。

(D 委員)

- ・ マニュアルを使いやすいものにしてもらえたら良い。
- ・ SNS 等は世の中の動きに合わせて、記載が増えるものも減るものもあると思うので、柔軟に対応出来るように。

(E 委員)

- ・ 文例は良いと思うが、スクロールせずに入った情報が目に入るかが重要である。見やすい位置に、パッと見て目につくところに、どういう言葉を入れるか検討する必要がある。

(事務局)

- ・ X の 140 文字制限も踏まえて、文例等を示して分かりやすいようにしていく。

(F 委員)

- ・ 毎回、同じ文章を同じタイミングで発信するのか。
- ・ 「早めの備えをお願いします」のような言葉を文頭に置いて、県民がメッセージを詳しく見ようと思える内容にした方が良い。

(事務局)

- ・ 表2で発信手法が「自動」のものは、毎回同じ文章・タイミングでの発信となる。
- ・ まず聞いてもらえるような文章・表現を考える。

(G 委員)

- ・ X の自由度がなくなっている事が防災担当者の中で話題になっている。10月4日の読売新聞では、熊本県が防災情報の発信を X でやめると書かれていた。他の都道府県の動向はどうなっているのか。

(事務局)

- X は仕様変更が行われて、システム連携数の上限が決められた。災害時にはどれだけ文書が出るか分からない。こういう事もあって、X の連携仕様が見直され、防災に関する地方自治体の情報発信について、問題はなくなっていると聞いている。
- 常にアンテナを高くして、仕様変更等の情報収集に努める。

(A 委員)

- 防災情報発信について、ユーザのご意見を収集する方法は。

(事務局)

- 県民へのお知らせを SNS で発信するようになり、県民から直接電話で問い合わせや意見を頂戴している。機会がある毎に県民の意見を聞いていきたい。

(2) 徳島県防災ポータルサイト「安心とくしま」ホームページの改修について

(E 委員)

- 資料5記載の B3 型は良い。
- 現状の安心とくしまホームページは両サイド（リンク・広告）が華やかなので、出来るものは取った方が良い。

(事務局)

- 出来るものは取り払うようにする。

(C 委員)

- B3 型は良い。
- 災害時はアクセスが集中しシステムがダウンする事が考えられる。ネットワークの太さを考慮する等、強靱なシステムにした方が良い。

(事務局)

- 過去には表示が遅くなった事もある。発災時においても、スムーズな表示が出来るようにしていく。

(H 委員)

- 安心とくしまホームページの構成だが、防災ポータルとして運用する場合は、平常時から多くの方が見に来ていただける構成にし、SNS で発信した防災情報の行きつく先とするならば、緊急時の情報だけを掲載するようにする。
- 青森県の防災ポータルでは、市町村が選べて表示する事が出来る。住民目線に立った情報発信を考えると、市町村は選択出来た方が良い。
- 安心ポータルとして運用する場合は、県警との連携で防犯を取り入れてはどうか。

(事務局)

- 防犯に関する情報発信も検討する。
- 安心とくしまでの市町村の情報発信は、検討していきたい。

(F 委員)

- B3 型は良い。
- 安心とくしまを SNS で発信した防災情報の行きつく先とするなら、スマホでも見やすい画面にする必要がある。
- キキクルへのリンクを貼るのは良いと思う。
- 県が発信する SNS のメッセージ内の URL が気象庁となっているが、

安心とくしまの URL にした方が良い。

アクセスが集中する懸念はあるが。

(事務局)

- SNS のメッセージの行きつく先として安心とくしまホームページとなるよう検討する。

(G 委員)

- B3 型は良い。
- 安心とくしまのホームページは職員が操作出来るのか。
- 緊急災害情報に緊急ではない記事がのっているので、「今はありません」等の表示をするべき。
- SNS のメッセージ内の URL は安心とくしまホームページを記載した方が良い。
- 安心とくしまの URL は簡単にした方が良い。

(事務局)

- 安心とくしまホームページは、職員で操作出来る。
- 緊急災害情報の記事は、システムの構成上、古い記事が表示されたりしているが、リニューアルする予定である。
- 安心とくしまの URL は短縮する方向で改修する。

(A 委員)

- 復旧期は、被災した事業者向けの情報や復興指針など、今よりも情報やタブが増えるだろう。
- 次の段階を見据えたレイアウトを今から考えておくとスムーズな情報発信となる

(事務局)

- 検討する。

(3) 県公式 LINE 登録者増に向けて

(H 委員)

- 登録しなくてはならない状況を作るとか。例えば企業の安否確認に利用する等。
- また高校生全員に県公式 LINE を入れてもらう工夫をすとか。

(事務局)

- 企業等が使える方策等を考えていく。

(B 委員)

- 徳島市も LINE をやっており、市の職員全員に入ってもらおう予定だが県はどうか。

(事務局)

- 県の職員には再三声かけしており、登録していると思っているが、もう一度依頼する。
- また県職員だけでなく、ご家族にも登録してもらえよう頼んでいる。

(事務局)

- すだちくんメールの登録者は5万人いるが、この登録者を県公式 LINE へと導きたい。徳島市とノウハウを共有出来れば良い。

(C 委員)

- 県公式 LINE の登録者数は1万2千人という事だが、もっと増やすべきであり、5万人はほしいので、来年度の取組が重要である。
- 必要性や重要性を認識させるべきである。教育委員会も含めて願います。
- 大学生で LINE を使っている人は多い。各大学に県から依頼してはどうか。

(D 委員)

- ・防災訓練で使う等、今日だけ LINE を見て良いと高校生に展開してはどうか。  
また県全体の取組に合わせる等、9月1日の防災の日の訓練と連動したら良い。  
例えば、訓練での発災情報等を LINE で発信して、それを確認させる等。

(事務局)

- ・情報は LINE が伝わりやすいので、利用出来るかもしれない。

(E 委員)

- ・弊社では R4.8 にアプリを配信し、1年で4万人の登録があった。  
キャンペーンをすると一気に登録者が増えると思う。  
きっかけ作りが必要であり、配信するコンテンツが重要である。

(事務局)

- ・登録者を増やしても、記事を見てくれなければ意味がないので、  
コンテンツも充実させていく。

(A 委員)

- ・入学のタイミング等。  
徳島大学の新入生のオリエンテーションでの配布資料の中に  
登録の案内を入れてはどうか。